液体キセノンを用いた暗黒物質探索

東京大学宇宙線研究所 森山 茂栄 令和5年2月21日 東京大学宇宙線研究所 令和4年度共同利用 研究成果発表会

令和4年共同利用経費 B08 配分額 200,000円 使用額:0円 2021年度からの繰越額 200,000円 使用額:0円 コロナ禍のため

- データ解析のための打ち合わせやコラボレーション会議はオン ラインで行われた。
- 昨年12月9日のコラボレーション会議は参加者の行き来の利便 性のため富山市で開催し共同利用経費を使用できなかった。 ありがたく返却させていただきます。

Dark Matter Search

XMASSを振り返る: 2000年での提案

- XMASSは、スーパーカミオカンデの物理を補完するために、 低エネルギーpp,⁷Beニュートリノの観測、暗黒物質探索等を 標榜し研究を開始。
- 当時のWIMPに対する制限は弱く、WIMPを発見し、そのバックグラウンドの下にpp太陽ニュートリノの観測をすることを目指した。0vββ,同位体分離によるスピン依存・非依存の区別。

Low Energy Solar Neutrino Detection by using Liquid Xenon (September 26, 2021)

Y.Suzuki (for the Xenon Collaboration [1]) Kamioka Observatory, Institute for Cosmic Ray Research, University of Tokyo, Higashi-Mozumi, Kamioka, Gifu 506-1205, Japan

arXiv:hep-ph/0008296v1 29 Aug 2000

IV. ISOTOPE SEPARATION AND DETECTION OF SOLAR NEUTRINOS, DOUBLE BETA DECAY AND DARK MATTER.





XMASS: 技術的ブレークスルー

- 当時液体キセノンは魅力的な標的ではなかった。
 - 市販のキセノンには放射性85Krが含まれていた。
 - ~1 Bq/kg → 2004年にはXMASSが蒸留法で <10 μBq/kgを実現
- 水チェレンコフ検出器によるアクティブシールド
 - Super-Kの経験により、鉛や銅のパッシブシールドを卒業し、水チェレンコフシ ールドを確立。これは高速中性子の低減にも有利であった。
- ・低BGPMTなど、稀事象探索へ向けた大型低バックグラウンド液体キセノン検出を確立:グローバルスタンダードの確立を果たした







Self shielding for γ injection (XMASS-I)

XMASS-Iの特徴

- 1相型検出器
- 有効体積カットによる低BG化
 - 大きな光電子数収量
 - ~ 14.7 p.e./keV ⇔ Super-K ~6 hits/MeV
 - 観測された光電子パターンによる事象
 位置再構成
 - 全質量832 kg, 20cm有効体積内97 kg
 - WIMP探索の目標 ~ 2x10⁻⁴⁵cm².
- e/γ 事象探索も可能
 - eとγも弁別可能
- 大型化による有利さ
 - 有効体積の効率高い
 - ・ 光透過率は10m以上:大型化可能
 - 時間情報の活用



XMASS-Iの歴史と物理



XMASSの物理ハイライト





Bosonic super WIMPS in 2014/18

Amplitude[events/day/kg/keV _{ee}] Expected ± 10 0.03 Expected ± 20 0.02 DAMA/LIBRA (2013 0.01 -0.0 -0.02 -0.03 18 0 2 4 6 8 10 12 14 16 20 Energy[keV_

Nuclear Recoil Energy [keVnr]

5 10 15 20 25 30



Solar axions in 2013

Annual modulation 2016/18/19

Double electron capture 2016/18

XMASSは大型暗黒物質探索用検出器を用いて 多数の物理目標を開拓した実績を持つ

5

Dark Matter Search

XMASS-I全データセットによる最新(最終)結果



31名の共同研究者

- 1. 有効質量97kgによるWIMP探索 大質量WIMPS
- 2. 全質量832kg内の季節変動による探索、特にミグダル効果、制動輻 射効果を活用 低質量WIMPS

Direct dark matter searches with the full data set of XMASS-I

K. Abe,^{1,5} K. Hiraide,^{1,5} N. Kato,¹ S. Moriyama,^{1,5} M. Nakahata,^{1,5} K. Sato,¹ H. Sekiya,^{1,5} T. Suzuki,¹ Y. Suzuki,¹ A. Takeda,^{1,5} B. S. Yang,² N. Y. Kim,³ Y. D. Kim,³ Y. H. Kim,^{3,8} Y. Itow,^{4,6} K. Martens,⁵ A. Mason,⁵ M. Yamashita,⁵ K. Miuchi,⁷ Y. Takeuchi,^{7,5} K. B. Lee,⁸ M. K. Lee,⁸ Y. Fukuda,⁹ H. Ogawa,¹⁰ K. Ichimura,¹⁶ Y. Kishimoto,^{16,5} K. Nishijima,¹¹ K. Fushimi,¹² B. D. Xu,^{13,5} K. Kobayashi,¹⁴ and S. Nakamura¹⁵ (XMASS Collaboration)* arxiv: 2211.0620 PRDに投稿

XMASSコラボレーションとしては、本論文が acceptされ次第、活動を終了することを決定



XMASSの論文集

Results from XMASS



Dec. 9, 2022 **XMASS** Collaboration

Unraveling the History of the Universe and Matter Evolution with Underground Physics

論文リスト Paper List

Proposal

[1] Low Energy Solar Neutrino Detection by using Liquid Xenon, Talk pr

Technical paper

NIM A 661 (2012) 50-5

K. NIM A 834 (20)

Physics results

In data from the XMASS-Lexperiment, Flog. Theor. Ep. Re

(30) Direct dark matter searches with full data set of XMASS-I, arXiv:2211.06204, paper committee: Abe, Takeda Orawa, Mediuma



Dark Matter Search

2017年における 将来計画委員会に於ける議論



粒子識別能力の高い2相式が大型化の問題を解決するにつれて2相式の優位性が明確になり、XMASS 実験の次世代の方向性を再検討する時期に来た。

ら妥当な判断である。今後、海外のG2実験に参加することは最先端の物理を引き出す有力 な方針と認められる。一方ではG2に続くG3も計画中であることから、G2での経験と神岡 でのアクティビティをG3へ繋げる配慮が望まれる。

4. 神岡での共同利用実験として

XMASS 実験は、神岡宇宙素粒子実験施設の実験室 C で推進される共同研究と位置付けられ てきた。提案では実験室 C は G3 実験に向けた R&D を進める場所とされるが、海外の G2 実 験に参加しても、分担部分の研究を進めるための実質的な研究の場所として使用されるこ とが望ましい。

委員会は、上記の問題を解きながら、コミュニティでの議論を継続しつつ将来の G3 実験 に繋がる計画に仕上げることを要望する。

10

お礼と今後



- XMASS実験発足の2000年以来、共同利用を通じて 長いサポートを頂いて来ました。
- 宇宙線コミュニティーには、暗黒物質直接探索の意義を認めていただき、XMASS及び将来へ向けた活動への理解を頂いたことにも感謝いたします。
- 今後暗黒物質の正体の解明へ向けて研究を進めて まいります。